あとがき

昨年に引き続き「総合的な学習の時間」の授業づくりをテーマにかかげ、本校の共同研究を進めてきた。

特に今年度は、総合的な学習の時間を「各学年、学級の創意を生かしたテーマ学習」と「情報教育の時間」に割り振り、それぞれの学年で育てたい力やその系統性を意識しながら、各学年ごと実践研究に取り組んだ。

ー各学年、学級の創意を生かしたテーマ学習の取り組みー　（７０～７５時間）

１・２学年では生活科の中で２学年が合同で取り組める共通単元を洗い出し、異学年交流を中心とした活動を通して人とのよりよいかかわり方やコミュニケーション能力の育成を図った。特に、「手作りおもちゃであそぼう」「おしえて・おしえて（昔あそび）」では、ゲストティーチャーを招き、児童のみならず身近な人々とかかわる場面を組み入れ、人とのかかわりをより一層深めさせた。

３学年では社会科の学習をきっかけとして自分たちの住む地域を見直し、地域の特徴や歴史の調査活動へと発展させた。３年生という時期から、問題解決学習の基礎的な能力の育成を図るとともに、学習のまとめの段階では図工や国語と関連づけ、絵や作文・手紙など多様な表現方法を取り入れた活動へとつなげることができた。

４学年では社会科学習の発展として環境学習に取り組んだ。「水」「ゴミ」の単元では学習の進度に合わせてそれぞれ適宜見学活動を取り入れ、児童への問題意識を高めた。また、太陽光発電パネルを使ったエネルギーの学習、地球環境の問題など、環境を広く捉えながらも、「自分にできることは何か」といった視点を児童に持たせ、身近な問題として考えさせた。

５学年では「お米」を年間のテーマとし、米作り体験やＮＨＫ放送番組を視聴することを通して、米に関わる多くの問題にも視野を広げ、抱いた問題を調べることによって、問題解決能力を育ててきた。また、情報教育との関連を図り、コンピュータを使った調べ学習や観察記録作りなど継続的に行ってきた。昨年の５年生での成果や課題を生かしながら、より発展的な取り組みへ高めることができた。

６学年では仙台にある歴史・文化的な史跡や文化財・記念碑・資料館などをテーマに沿って調べ、見学・学習し、歴史・文化マップを作成することによって自ら課題を見つけよりよく問題を解決する能力の育成を図ってきた。また、図書資料やインターネットで調べたことを３回に及ぶ現地の実地調査へとフィードバックさせ、実体験を伴った知識・理解へと高めることができた。

特殊学級では児童が高い興味・関心を持っている新幹線（ＭＡＸ）を学習問題として取り上げ、MAX に関わる多くの問題を国語や社会、理科、図工などの教科と関連づけ、主体的な活動を通して自ら学び考える態度を育成してきた。また、人とのかかわりでは子供同士のみならず、保護者や祖父母、元ＪＲ職員などより多くの人々を巻き込んだ活動へと発展させ、児童に成就感や満足感を与えることができた。

以上のように、昨年の実践を踏まえながら、それぞれの学年・学級において新しい教材の掘り起こしと実践授業に取り組み、その成果と課題から次年度への方向性をつかむことができた。また、今年度はゲストティチャーの派遣人数が全体でのべ１００名を越えるなど、外部講師も積極的に活用しながらテーマ学習を推進してきた。

ー情報教育の取り組みー　（１・２年：２０時間　３～６年：３５時間）

本校の特色ある学校教育の１つとして情報教育をとらえ、今年度は総合学習の一環として全学年の取り組みのもと「情報活用能力」の育成を図ってきた。１・２年では、主としてコンピュータの基本操作を中心に、３年生以上では教科との関連を図りながら学習の道具としてのコンピュータ活用を図ってきた。（※情報教育のまとめ参照）

コンピュータを使った学習に児童はとても興味・関心を持っている。しかし、これまでは教師によって積極的に活用したりそうでなかったりといったケースが見られ、その結果学校全体として系統的に指導したり、児童全体の底上げを図ることが難しかった。そうした意味においては、全ての学年・学級が時間を設定し、全校体制で取り組んだ意義は大きいと言える。当初は、「コンピュータを活用した授業の構想がもてない」、「技術的な面での指導が難しい」などの声も聞かれたが、職員研修を繰り返し実施したり、ティームティーチングの導入など指導体制を工夫したりすることで、徐々にこうした問題も解消されていった。

今年度１年間継続して取り組んだ成果は大きく、コンピュータを活用して作った児童の作品を見ても、確実にレベルアップしていることがわかる。また一方で、テレビ会議やマップ型学習調査など、新しいシステムを取り入れた授業実践も行われ、児童のみならず教師自身のスキルアップも図られた。

ー１３年度の研究のまとめー

平成１４年度完全実施の新指導要領を見据え、昨年度そして今年度と２年間にわたり、「総合的な学習の時間の授業づくり」に取り組んできた。当初は手探り状態からの研究のスタートとなったが、それぞれの学年で創意・工夫をこらし、地域教材の開発や授業実践を進めてきた。２年目の今年は昨年の成果と課題をもとに、「児童に育てたい力」を系統的に配列し、教師がその学年で身につけさせるべき力を意識した学習指導を行うことで、活動内容が異なっても全体として総合的な学習時間がめざす本来のねらいを達成することが可能であることを明らかにすることができた。同時にこうした児童の力や総合学習を進める上で必要となる基礎的な能力は、単に総合的な学習の時間でのみ育つものではなく、日常の教科指導の積み重ねによって培われるものであり、日々の授業改善の重要性を再認識させられる結果となった。

この２年間の研究の成果として、次年度本校における総合的な学習の時間の方向性を以下のように打ち出すことができた。これまでの研究の成果と課題を生かしつつ、黒松小学校の特色ある総合学習をより一層進めていきたいと考える。

平成１４年度　　総合的な学習の時間全体計画

１．目標

（１）自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく解決する資質や能力を育てる。

（２）学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探求活動に主体的，創造的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。

２．重点努力事項

○児童に育てたい力を明確に抑え、全学年通して系統的に指導する。

○低学年は生活科で推進する。

○学びの環境や条件を高めるために地域の人的資源の活用を広く求め，計画・実践する。

３．総合的な学習の時間の割り振り

① 情報教育系統化の推進

・年間３５時間，週１時間必修とし，全学年で実施する。

② 学年や児童の実態に即した授業づくり

・環境を柱としたテーマ学習を行う。

③ 体験的な活動を高めるための時間

・野外活動５年

・修学旅行６年

④ 国際理解教育の推進（英語に慣れ親しむ）

⑤ 特色ある教育活動として

・自分たちで企画運営し、主体的に活動する「まつのみまつり」

・音つくりの技能を高め、友達と共に楽しみながら活動する「まつのみ音楽会」

具体的な内容	生活科		総合的学習の時間			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
・自分たちで企画運営し，主体的に活動する「まつのみ祭り」	4	4	１０	１０	１０	１０
・音つくりの技能を高め，友だちと共に楽しみながら活動する「まつのみ音楽会」	8	8	１０	１０	１０	１０
・体験的な活動を高める ５年の野外活動（9/179/18） ６年の修学旅行（10/23 ～ 10/25）					１０	１０
・情報リテラシーの育成 情報スキル 教科との関連	１３ １０	１０ １３	１０ ２５	１０ ２５	５ ３０	５ ３０
・国際理解教育	2	2	8	8	8	8
・環境をテーマにした問題解決学習			４２	４２	３７	３７
	３７	３７	105	105	110	110

※１・２年は生活科、音楽、ならびに調整時数の中で実施する。